

男のフェスティバル 2004

IN KAGAWA

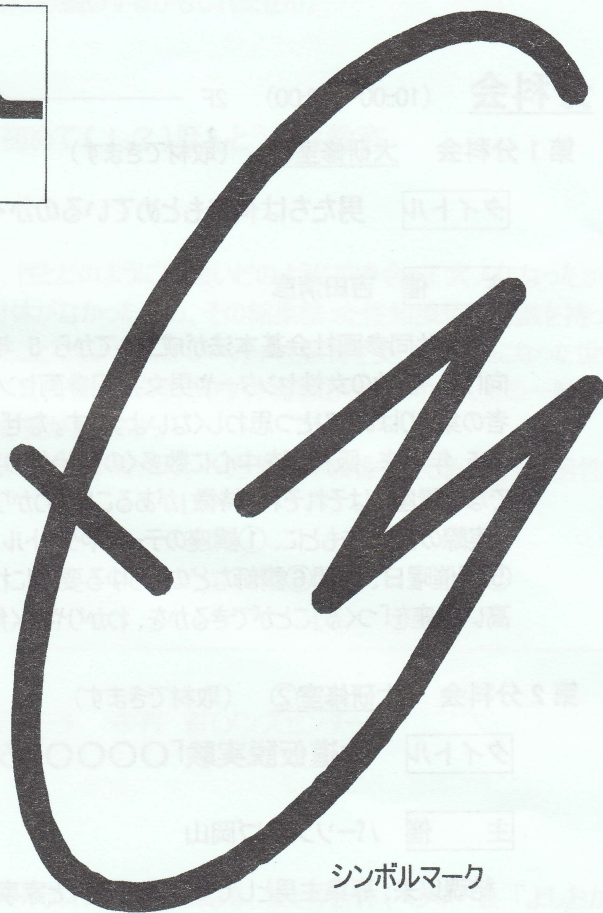
パンフレット

今年フェスティバルのテーマは、

ONLY ONE

です。

かけがえのない大切な私。
ひとりひとり違う個性をもつ、特別な私。
だから、性別にかかわらず、自分らしく生きたい。
そんな思いをこめて、楽しく交流しましょう！



シンボルマーク

と き

2004年9月5日(日)

ところ

高松市生涯学習センター(まなびCAN)

タイムテーブル

- 09:20 オープニング・セレモニー(大研修室)
- 10:00 基調講演・分科会 ※いずれかにご参加ください。
- 12:00 昼休み
- 13:00 シンポジウム(～15:00)
- 15:20 ファイナル・ミーティング(～16:00、大研修室)

【同時開催】

- 「男女共同参画社会づくり指導者育成セミナー」(香川県青少年・男女共同参画課)
- 「県民カレッジ・専門講座 男女共同参画特別研修」(香川県教育委員会)

主 催

「男のフェスティバル2004 IN KAGAWA」実行委員会

e-mail haru@ma2.seikyoku.ne.jp TEL/FAX 0877-63-7856

共 催

香川県、香川県教育委員会

基調講演 (10:00～12:00) 3F 多目的ホール

タイトル 男女共同参画でひろげる男性の生き方

講師 中村 彰 なかむら あきら

(プロフィール) 1947年、大阪府生まれ。1991年4月、仲間たちと「メンズリブ研究会」を立ち上げ、1995年10月には、メンズリブ運動の場である「メンズセンター」を、大阪府中央区に設立する。現在、メンズセンター運営委員長、日本DV防止・情報センター理事、日本ジェンダー学会理事、相愛大学非常勤講師ほか。

分科会 (10:00～12:00) 2F

第1分科会 大研修室① (取材できます)

タイトル 男たちは何を求めているのか～人の集まる男性講座のつくり方～

主催 吉田清彦

男女共同参画社会基本法が成立してから5年、男女がともに「仕事と家庭の両立」が可能な社会の早期実現に向けて、各地の女性センターや男女共同参画センターで男性を対象とした講座がいろいろ企画されていますが、参加者の集まりはいまひとつ思わしくないようです。なぜ、男たちはそのような講座に参加しないのでしょうか。

95年以来、阪神間を中心に数多くの自治体の男性講座の企画にかかわるなかで、参加者が多く集まる講座とそうでない講座にはそれぞれ「特徴」があることがわかりました。

実際のチラシをもとに、①講座のテーマやタイトル、②呼びかけやおさそいの言葉、③講座のスタイル、④開催回数、⑤開催曜日、時間⑥講師などのあらゆる要素にわたって、どうすれば受講者が多く集まり、かつ、受講者の満足度の高い講座を「つくる」ことができるかを、わかりやすく解説していきます。

第2分科会 大研修室② (取材できます)

タイトル 大道仮説実験「〇〇〇〇ころりん」

主催 パーソンズリブ岡山

結魂以来、専業主男として3人の子育てと家事をしてきましたが、「ジェンダー」に関する話は他の分科会で行われることと思います。そこで1つ位、目先の変わった分科会があっても良いのではないかと思います。科学の実験を楽しんでもらいます。

始めに、私のオリジナルケーキ「カマ・デ・チョコラ」の作り方を説明し仕掛ける。出来上がるまでの間く大道仮説実験をします。近代科学が始まった1600年当初、科学者は馬車に実験道具を積み込み、実験を見せながら町から町を移動し生計を立てていました。そのエンターテインメントとしての楽しい科学の実験「ころりん」を通して感情的になりやすい日常に、科学的な「ものの見方・考え方」を思い出してもらえたらと考えました。最後の実験で、パートナーの選び方に話が及ぶとうれしいです。

残り時間は「カマ・デ・チョコラ」を食べながら「オンリーワン」について話し合えたらと思っています。

第3分科会 小研修室 (取材は、新聞、雑誌など活字メディアのみ)

タイトル 「長男」という憂鬱

主催 RIN

長男、この言葉に皆さんはどのようなイメージを持ちますか? 「長男」にまつわる様々を自由に語り合えればと思います。「長女」あるいは当事者外の方の参加も歓迎。

第4分科会 大研修室② (取材については、分科会主催者にお聞きください)

タイトル モテない君、モテないさん、いらっしやーい！ーコンのひゅ・うー・Men's Jam(ひゅうーめんずじゃむ) vol.4ー

主催 コン

今までに、夫婦間のパートナーシップ('99 第4回京都)、性虐待被害者のケア('00 第5回宝塚)、家事、育児('01 第6回福岡)と、皆さんと語り合ってきました。今回は恋愛経験の少ない人や今までに無い人と語り合いたいと思います。

参加資格:15 歳以上の日本語の口述会話が出来る方ならどなたでも(ろう者の方は手話通訳者同伴なら参加可)。他の参加されている方の性指向に批判的な方は、退場をお願いするかもしれません。

第5分科会 視聴覚室 (取材できます)

タイトル 男(わたし)の生き方と性～大人も初めて(!?)ほんとうの性教育

主催 メンズリブフォーラム岡山

男性の生き方は様々な要因によって決定されますが、性どのように出会いどのように向き合って大人になったかは重要な要因のひとつと思われます。かつては、性教育自体がなかったため、その結果誤った性知識や性意識を持ったまま大人になったり、男性性を身につけた男性が多かったことでしょう。しかし一方、性教育を受けて大人になった世代も、十分な性教育を受けないまま大人になっては過去の世代と同様の過ちを犯す危険が生じます。人生の一時期に、性の3領域をしっかりと学ぶ性教育をどうしても経験する必要があります。

自分の苦い経験を踏まえて、ほんとうの性教育を体験してもらいながら、一方音楽や映像を楽しみながら、男性の生き方を考えていきたいと思います。

シンポジウム (13:00~15:00) 3F 多目的ホール

タイトル 男性運動の課題と成果 /コーディネータ 中村 彰(メンズセンター)

シンポジスト

吉岡 俊介(よしおか しゅんすけ) メンズセンター

1954 年生、神戸市灘区在住。金融機関勤務を経てイラストレーターになる。妻との合作(ペンネーム「よしおかとしみ」)で描いた絵本『まかせなさい！』が大阪府等主催の男女共同参画社会実現のための絵本コンテストに入選。以後、絵本や SF 小説の創作に携わるようになる。作品に絵本『なみだ』『ふしぎなサッカーボール』『ちきゅうをまろう！』SF 小説『マグネット』など。

早谷川 悟(はせがわ さとる) 栗林おやじ塾

1961 年生、高松市在住。建築設計士。都内の百貨店勤務を経て、地元へ帰り有早谷川建築設計事務所経営。PTA役員になったことをきっかけに「まちおこし」と「子どもたちの活動支援」を目指し、2000 年「栗林おやじ塾」を立ち上げ代表となり、まちづくり活動を展開中。また、県内の「おやじの会」に呼びかけて「さぬきおやじ連合」を結成し、昨春秋「第1回 全国おやじサミット in かがわ」を実行委員長として開催する。今春まで、自身の子どもの通う高校、小学校のPTA会長を務めたほか、県内外で、父親の家庭教育や地域活動参加についての講演を行っている。

丹原 恒則(たんばら つねのり) メンズリブフォーラム岡山

1953 年生、岡山市在住。大学卒業後に環境庁系列の政府関係特殊法人である環境事業団へ勤務。東京での共働きの暮らしの中で、子育て期をどう乗り切るか考え、「男の育児時間」を4年余り取る。次のハードルとして老親問題に遭遇。故郷へ帰り、共に生きて幸せを分かち合うため、三十半ばで岡山へ転居。転居後は、生活情報誌の記者、「月刊プラザ岡山」の副編集長を経て、生涯学習の必要を感じ、「福澤諭吉『日本男子論』の (裏面へつづきます)

(前ページより) 今日的意味」を検討する論文を岡山大学大学院法学研究科で作成する。現在は、評論や書評などを書き、男女共同参画講座の講師などを務めるかたわら、「男らしさが日本の近現代でどのようにつくられてきたのか」(男性性の構築過程)をさぐる近代日本男性史研究会(代表細谷実)などに参加。メンズリブ研究会、福澤諭吉協会、日本ジェンダー学会、セクシュアリティ研究会、メンズリブフォーラム岡山などの会員。元岡山市「男女共同参画推進協議会」委員。著述業。

著書(いずれも共著)に、『男の育児書』(現代書館,1987)、『男たちの「私」さがし—ジェンダーとしての男に気づく』(かもがわ出版,1997)、『道徳的な男性性構築の課題—福澤諭吉の〈チグニチー〉〈愛〉〈敬〉〈恕〉論』『現代のエスプリ』第446号マスキュリニティ/男性性の歴史(至文堂,2004)

佐伯 典久(さえき のりひさ) 香川県総務部青少年・男女共同参画課

1955年生、高松市在住。1978年 県庁に入庁し、高松県税事務所、農政課、東京事務所、健康福祉総務課などを経て、現在青少年・男女共同参画課課長補佐。男女共同参画推進担当として4年目。

シンボルマークについて このシンボルマークは、「男のフェスティバル」(Men's festival)の英語の頭文字である、Mとを、笑い顔と割れはじめた卵の殻をイメージして、図案化したものです。楽しみながら、自分の殻を破るという意味が込められています。また、Mとはそれぞれ男性、女性の頭文字でもあります。

お願い

- 参加者すべての方がこの集まりを気持ちよく楽しむために、次のことをお守りいただけますようお願いいたします。
 - ① 個人的なものであっても、録音、撮影などはご遠慮ください。
 - ② 基調講演や分科会、シンポジウムの会場では、携帯電話、PHS等の電源はお切りください。また、通話はご面倒でも廊下でお願いします。
- 実行委員会による写真、ビデオの撮影について
実行委員会では、「男のフェスティバル 2004 IN KAGAWA」の記録を残すために、写真とビデオの撮影をおこないます。みなさんのプライバシーに配慮しておこないますので、あらかじめご了承ください。

「男のフェスティバル」とは、全国の男性運動グループの交流を目的とした集まりです。

1996年11月の京都での初開催以来、毎年開かれています。集まって議論ばかりするのではなく、お祭りのように、楽しむ場にしたいというコンセプトのもと、フェスティバルと名づけられました。もちろん、かつて関西で開催されていた「女のフェスティバル」の影響を受けています。

フェスティバルは、さまざまな男性問題に関わる人々との、出会いの場になっていますので、体験や交流会を通じて、あなたのためのヒントを探してください。

男性問題や運動について、広く知ってもらいたいと考えています。性別・性自認・性指向・年齢・個人/グループの別を問わず、どなたでもご参加いただけます。

ごあいさつ

「男のフェスティバル 2004 IN KAGAWA」にご参加いただき、ありがとうございます。「男のフェスティバル 2004 IN KAGAWA」は、第9回目の「男のフェスティバル」です。また、「男のフェスティバル」が、大都市圏以外で、そして中国四国地域で開催されるのは、今回の高松が初めてです。しかも、開催直前に台風により戦後最大の被害を受けるという逆風もありました。しかし、規模は小さくとも、充実した楽しいフェスティバルにしたいと考えています。最後になりましたが、この度のフェスティバルを開催するにあたって、ご支援、ご協力いただいた方へお礼申し上げます。(実行委員会委員長 大山 治彦)